

市町村名		今帰仁村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-	人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部課名	教育委員会 社会教育課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体をはぐむ教育の推進 -3-(1)		
事業内容	小学生を対象に、山形県酒田市児童と将来の指導者育成の為、交流事業を行う。南国沖縄県にとって、本州の北に位置する東北地方はまさに「異文化」であり、異なる環境で生活している同年代との交流を行うことにより、子供達の視野の広がり及び教養に対する意欲と将来に向けての刺激を与える。							
効果発現年度	当年度		後年度( 年度)					
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他( )		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a)当初予算額		5,187	5,687	4,872	4,617	4,617
		(b)予算現額		5,138	5,227	4,800	4,888	4,588
		(c)増減額(b-a)		49	460	72	271	29
		(d)繰越額		-	0	0	0	0
		A.計(b+d)		5,138	5,227	4,800	4,888	4,588
		B.執行済額		5,138	5,227	4,800	4,888	4,588
		うち交付金充当額		4,111	4,181	3,840	3,910	3,670
		次年度繰越額		0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	事業計画どおりに執行を行った。							
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況						
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
		本村小学生を対象に、山形県酒田市の児童と文化学習会等の交流事業を行う。派遣児童数:36人	目標	( 36人 )	( 36人 )	( 36人 )	( 36人 )	
			実績	35人	35人	35人	36人	
			目標	( )	( )	( )	( )	
実績								
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>山形県の文化に触れ、民泊や体験学習等をととして交流することができ、見聞を広めることができた。</li> <li>令和2年2月5日~9日までの5日間実施。</li> </ul>							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)		
		目標	( )	( )	( 80% )	( 80% )	( )	
		実績			80%	100%		
		目標	( )	( )	( )	( )	( )	
		実績						
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者は、派遣後、報告会において団員の個人のテーマ、班のテーマの自己評価を発表した。</li> <li>報告会において山形県と沖縄県の文化の違いを話し合い、研修の振り返りを行った。</li> <li>前年度同様に報告会時に保護者アンケートを実施した。「交流を通じて児童の異文化に対する視野が広がったと感じるか」の問いに対し、回答した保護者の100%で「目的意識や異文化への興味関心が増してきたように感じられる」と回答した。</li> <li>上記報告会の結果を踏まえ参加者全員の報告書を作成した。</li> </ul>							

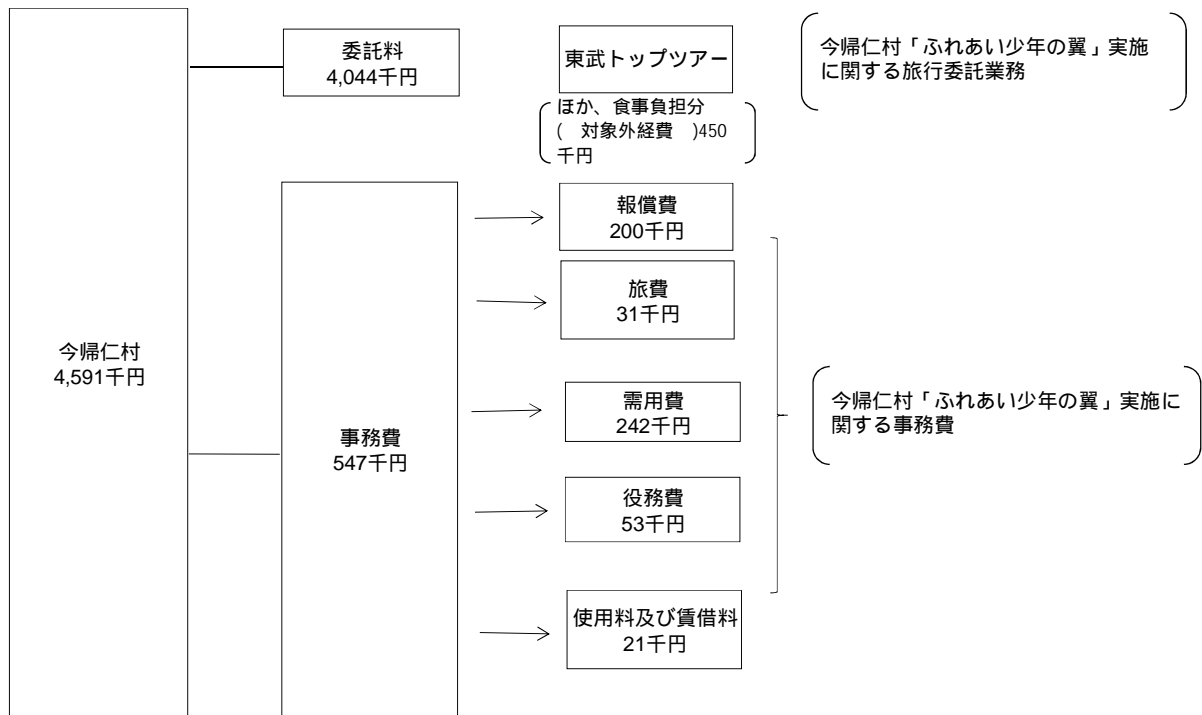
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・保護者へのアンケート結果より、児童の異文化に対する視野の広がりについては成果があったと考える。	・事前研修で山形県酒田市の文化・自然の学習を行い、学校と民泊で交流を实践したが、親交が深まるまでに時間を要した様子であったので、コミュニケーション力の向上を含めた事前研修が必要である。

**今後の取り組み方針**

・より異文化交流を充実するために、コミュニケーション力を助長させる事前研修の進め方を検討する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,041	4,591	3,672	919	450



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者については、一般競争契約で選定し妥当であったと考えている。 予算規模については、適正な規模であったと考えている。 将来の指導者育成の為、小学生を対象とした交流事業を行う目的の為の支出であり、関係する書類等を検証した結果適正である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	教育環境充実事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
	担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進	
事業内容	児童生徒に対し、個々に応じたきめ細かなサポートを行うため、幼稚園に特別支援員、小中学校にそれぞれ学習支援員と特別支援員を配置						
効果発現年度	当年度	後年度( 年度)					
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他( )		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a)当初予算額	29,770	33,226	23,655	19,625	24,519
	(b)予算現額	21,294	33,226	14,138	18,265	19,186	
	(c)増減額(b-a)	8,476	0	9,517	1,360	5,333	
	(d)繰越額	-					
	A.計(b+d)	21,294	33,226	14,138	18,265	19,186	
	B.執行済額	21,294	19,369	14,138	18,265	19,186	
	うち交付金充当額	17,035	15,495	11,311	14,612	15,349	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	58.3%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	出勤日数の減及び支援員の人材不足による配置の遅れから5,333千円の減額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	支援員(預かり含む)の配置人数 ・幼稚園(特)2人 ・小学校(学)3人(特)5人 ・中学校(学)1人(特)1人	目標	幼(預)4人(特)0人 小(学)3人(特)8人 中(学)1人(特)1人	幼(特)0人 小(学)3人(特)5人 中(学)1人(特)1人	幼(特)1人 小(学)3人(特)4人 中(学)1人(特)1人	幼(特)2人 小(学)3人(特)5人 中(学)1人(特)1人	
		実績	幼(預)0人(特)2人 小(学)3人(特)6人 中(学)1人(特)1人	幼(特)1人 小(学)3人(特)4人 中(学)1人(特)1人	幼(特)2人 小(学)3人(特)5人 中(学)1人(特)1人	幼(特)1人 小(学)3人(特)5人 中(学)1人(特)2人	
達成状況説明	目標	( )	( )	( )	( )		
	実績						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	沖縄県学力達成度調査における、県と本村の平均正答率の差 小学生 -0.8ポイント以上 中学生 -7.1ポイント以上	目標	( )	( )	( -2.4P以上 -4.0P以上 )	( -0.8P以上 -7.1P以上 )	( )
		実績			+2.0P -10.0P	( -0.9P -6.5P )	
	対象となる児童生徒が学校生活や学習上の困難の改善を図ることができたか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	( )	( )	( 80% )	( 80% )	( )
		実績			75%	100%	
進捗状況説明	沖縄県学力到達度調査において、県と本村の3ヵ年平均の差は、小学校6年生算数で「-0.9P」、中学生2年生数学で「-6.5P」となり、いずれも県平均には届いていないが、成果目標において小学生においては、0.1P下回り、中学生においては0.6P上回った。 アンケート結果について、学校生活や学習上の困難の改善を図ることができ、落ち着いて学校生活を送れたとの回答が100%となり、目標を達成できた。						

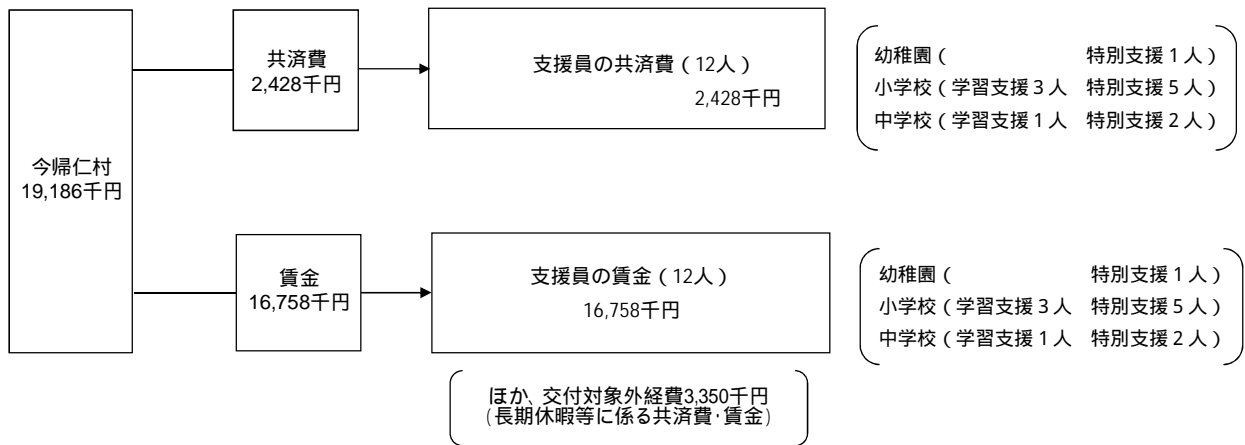
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>令和元年度に小学校6年生算数で、県平均点を上回った学校数は、3校中3校、中学校3年生数学では、1校中1校が県平均を下回った。</p> <p>学習支援員は、各学校に1名配置が実施でき、学習支援の必要なクラスへサポートが行えた。特別支援員は、当初より人数の要望が増えたが人材確保が困難であり要望通りの人員配置をすることができなかった。全体支援を強化するために人員確保が必要である。</p> <p>対象児童生徒の数は年々増加の一方であるため、きめ細かい対応まで至っていない部分も見受けられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援、特別支援をバランスよく進める為には、教師と支援員の連携が必要不可欠となってくる。全体支援と個別支援のバランスよく進めて行けるよう情報交換し、状況を把握しながら、支援の必要なところには適切に配置、サポートする。</li> <li>現在は年度末に確認できている対象児童を基準として支援員の人数を算定しており、後手になりやすい。申告制の難しさもあるが、常時児童の様子を確認しながら早期に対象児童を割り出せるようにできる仕組みを考えたい。</li> <li>幼稚園については、現場の声で減としたが次年度よりこども園に統合されて支援員が不要となる。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

個別の学習指導については、各校の児童生徒により必要な指導方法が異なるため、各校の状況に合わせた支援を継続し実施していく。  
 定期的に連絡会及び研修会を行い、状況が改善した学校における取組を紹介するなどして、情報交換を行い、支援者のスキル向上や各校の取り組みの標準化を図る。  
 日頃の児童観察等をととして支援対象児童数を早期に割り出すための方策を検討する。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
22,536	19,186	15,349	3,837	3,350



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○特別支援員については、ハローワークにて公募し面接決定している。学習支援においては、「教員免許の所持」を条件として定めており、適切かつ妥当な選定である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、目標は達成できたが、学校からの追加要望に対して人員の確保ができなかった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村									
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	1 -	中学生海外語学留学支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 5 - (4) - ア					
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育推進 - 3 - (1)					
事業内容	英語への関心・意欲を高め国際感覚豊かな人材を育成するため、本村の中高生の海外ホームステイを行う。										
効果発現年度	当年度		後年度( 年度)								
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他 ( )					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度	
		(a)当初予算額	2,126	2,562	2,563	3,442	2,729				
		(b)予算現額	2,938	3,904	2,709	2,632	2,519				
		(c)増減額(b-a)	812	1,342	146	810	210				
		(d)繰越額	-								
	A. 計(b+d)		2,938	3,904	2,709	2,632	2,519				
	B. 執行済額		2,938	3,904	2,709	2,632	2,519				
	うち交付金充当額		2,350	2,813	2,167	2,105	2,015				
	次年度繰越額		0	0	0	0	0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%				
予算の状況の説明		当初予算から207千円の減額が生じたが、委託内容を詰めた結果であり、事業計画どおり執行した。									
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況								
			H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		
	本村今帰仁中学校に在学する中学生2人をハワイ州に2週間、北山高等学校に在学する本村出身高校生を6人ジョージア州に2週間ホームステイさせる。		目標	(中学生:2人 高校生:4人)	(中学生:2人 高校生:6人)	(中学生:2人 高校生:6人)	(中学生:2人 高校生:6人)				
			実績	中学生:2人 高校生:6人	中学生:2人 高校生:6人	中学生:2人 高校生:6人	中学生:2人 高校生:6人				
			目標	( )	( )	( )	( )				
		実績									
達成状況説明	・中学生海外語学留学支援事業 中学生2人 留学先:米国ハワイ州 R1.7.24～8.7まで 高校生6人 留学先:米国ジョージア州 R2.2.19～3.1まで ・事業計画どおり中学生の海外ホームステイを実施し、目標を達成した。										
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)				
	帰国後、生徒の国際的な視野がより広がったか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業を検証する。		目標	( )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	( )			
			実績		100%	80%	100%				
	[参考指標]		目標	( )	( )	( )	( )	( )			
			実績								
進捗状況説明	・帰国後の保護者アンケートで、「生徒の国際的な視野がより広がった」との回答が100%となり、目標を達成した。 ・生徒へのアンケートでは全員が異文化交流やコミュニケーション能力の向上等の目的を達成できたと回答しており、英語への関心・意欲が高まっていることが伺えた。										

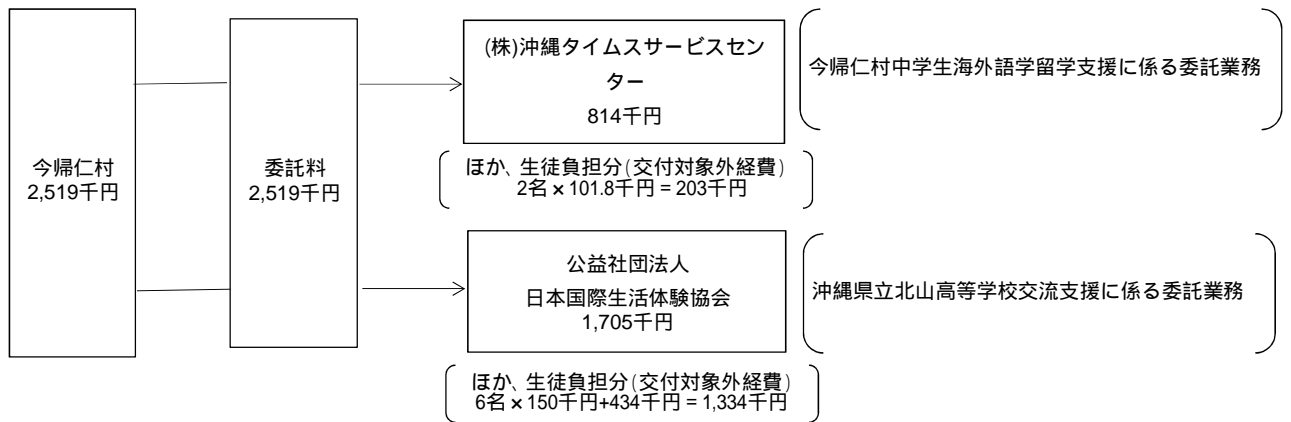
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>引率教諭の確保が難しく、当初2週間の海外語学留学であったが、12日間に短縮となった。今後、引率教諭の確保が課題となる。</li> <li>派遣者が経験し学んだことを報告会等にて村内中高生に周知し、英語への関心・意欲を高め、広い視野を持った国際感覚豊かな人材を育成する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引率教諭の選任について、派遣期間いっぱい参加できる教諭を確保するため学校と密な調整が必要になる。</li> <li>各学校での報告会や学力向上推進大会、村広報誌にて中高生の家庭、村民に周知し本事業を理解し、英語への関心を高める必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- 引率教諭の派遣期間について校務の状況を確認しながら検討する。
- 学力向上推進大会や村広報誌にて本事業を周知し、中高生の英語への関心を高める。
- 生徒、引率教師の安全安心を確保し、質の高い留学を行うために、プログラム内容についても確認し検討する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

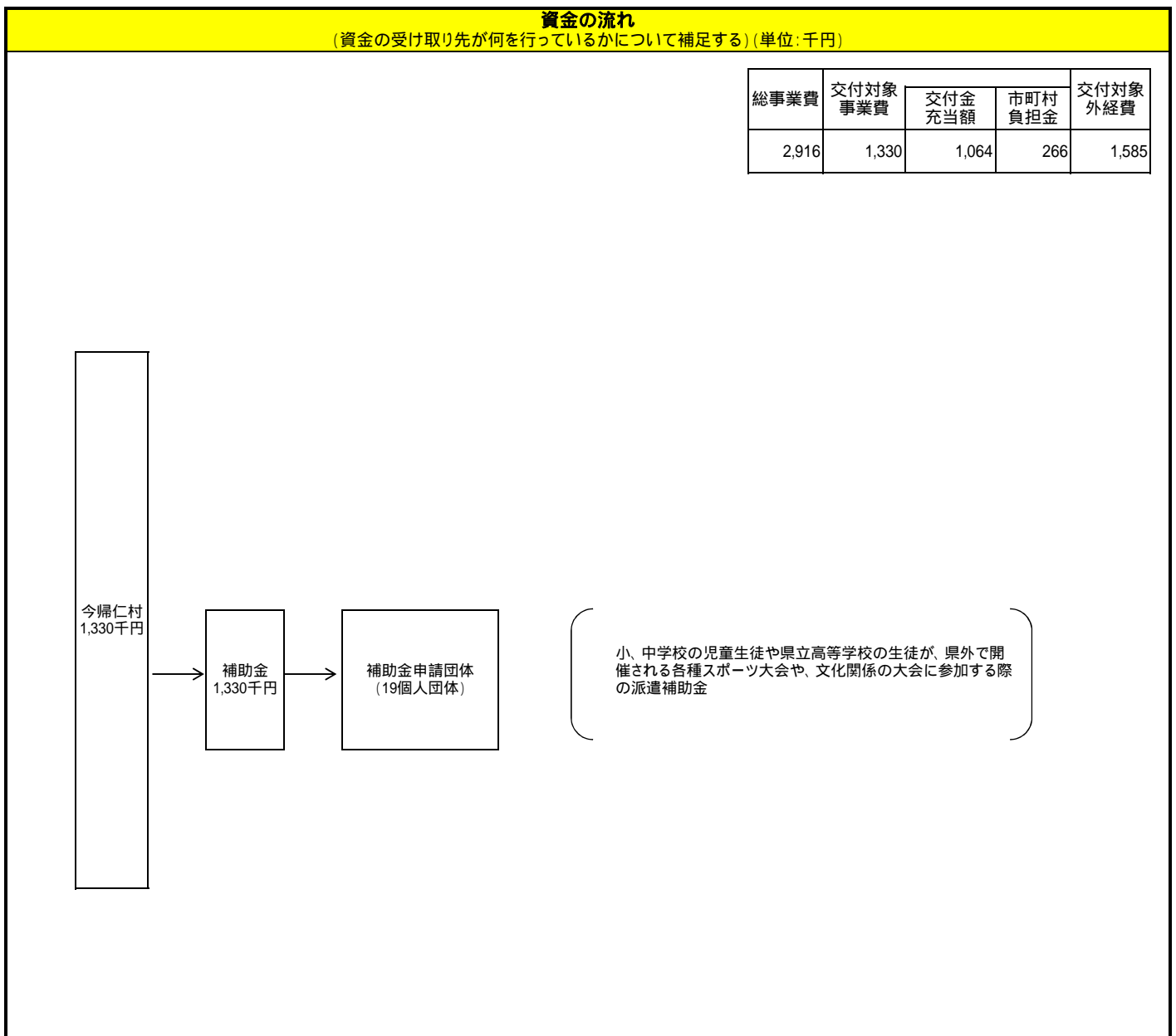
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,057	2,519	2,015	504	1,538



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○中高生向けの海外留学を実施している委託先を選定し事業を行い妥当だと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容に見合った経費となっており、予算規模は適正である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○総事業費の2割相当額を自己負担(交付対象外経費)としているため受益者負担は妥当であると考えられる。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、語学留学支援や、研修費に使用し適正であった。

市町村名		今帰仁村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	児童生徒等の県外派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3章 5 (2) ア	
	担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充	
事業内容	小、中学校の児童生徒並びに今帰仁村に所在する県立高等学校の生徒が、各種スポーツ大会や文化関係大会に参加するための県外派遣費を支援する。						
効果発現年度	当年度 後年度( 年度)						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,200	2,200	1,000	1,000	1,000
		(b)予算現額	1,260	1,050	1,000	967	1,330
		(c)増減額(b-a)	940	1,150	0	33	330
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	1,260	1,050	1,000	967	1,330
	B.執行済額		1,260	1,050	894	967	1,330
	うち交付金充当額		1,080	840	715	774	1,064
	次年度繰越額		-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	89.4%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		R1年度は派遣人数が増(総計140名)となったため派遣費用を増額し執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	小・中学校の児童生徒並びに今帰仁村に所在する県立高等学校の生徒が、各種スポーツ大会や文化関係大会に参加するための県外派遣の費用を支援する。		目標 (派遣費を補助)	(派遣費を補助)	(派遣費支援)	(派遣費支援)	
			実績 派遣費補助の実施	派遣費補助の実施	派遣費支援	派遣費支援	
			目標 ( )	( )	( )	( )	
			実績				
達成状況説明	スポーツ系の派遣は、団体で14件131名、個人で2件2名、計133名に対するの派遣費支援である。文科系の派遣は、1団体で7名に対するの派遣費支援である。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	県外の人との競争や交流を通じて児童生徒の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケートにより、本事業を検証する。		目標 ( )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	( )
			実績	90%	90%	85%	
	[参考指標]		目標 ( )	( )	( )	( )	( )
			実績				
進捗状況説明	保護者へのアンケートの結果、「県外の人との競争や交流を通じて児童生徒の視野が広がった」との回答が85%を超え、目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果から一定以上の成果は出ていると考えられる。</li> <li>これまでに運動競技は多いものの、文化系団体の派遣が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートでの満足度は高い。</li> <li>文化系の大会についても派遣対象であることを伝えて事業の活用を促す。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>現在のアンケート調査では、事業利用者の満足度は高いため内容の充実は今後も継続する。</li> <li>文化系団体にも事業利用可能であることを周知し、事業を活用してもらう。</li> </ul>		



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	各団体の申請に基づき審査を行い、選定を行っているのが妥当である。 不用は発生しておらず、予算規模は適正である。 補助金要綱に基づき航空運賃の補助(補助率1/2)を行っており、受益者との負担関係は妥当である。 費目、使途についてはその大会実績による派遣費補助の観点から必要なものであり適正である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名		今帰仁村									
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	2-	環境保全美化推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ					
	担当部課名	経済課、建設課、住民課、社会教育課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入体制の整備					
事業内容	・本村の観光拠点である今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化作業を実施し、観光客の受入体制を整える。 ・地域環境の保全、地域住民及び観光客の安全と誘客を図り景観を保全するため、村道を中心として不法投棄のパトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の対策を強化する。										
効果発現年度	当年度		後年度( 年度)								
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他 ( )					
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度	
		(a)当初予算額	30,694	27,668	23,747	30,050	34,762				
		(b)予算現額	32,961	27,666	24,830	32,264	35,762				
		(c)増減額(b-a)	2,267	2	1,083	2,214	1,000				
		(d)繰越額	0	0	0	0	0				
		A.計(b+d)	32,961	27,666	24,830	32,264	35,762				
		B.執行済額	32,961	27,666	23,615	32,264	26,577				
		うち交付金充当額	26,369	22,132	18,892	25,811	21,261				
		次年度繰越額	0	0	0	0	0				
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	95.1%	100.0%	74.3%				
予算の状況の説明		・台風や長雨による危険木の増化対応の為、予算の増額を行った。 ・作業員の健康上の理由およびその後代替人員を見つけれず執行残が生じた。									
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況								
			H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		
	今帰仁城跡及び観光地の美化及び観光ルートの美化を行う。		目標	美化作業の実施 景観保全の実施 花植え付けの実施	美化作業の実施 景観保全の実施	観光地の美化作業の実施	観光地の美化作業の実施				
			実績	美化作業の実施 景観保全の実施 花植え付けの実施	美化作業の実施 景観保全の実施	観光地の美化作業の実施	観光地の美化作業の実施				
			目標	( )	( )	( )	( )				
		実績									
達成状況説明		・今帰仁城跡、古宇利島を中心とした村内の観光地や文化財のある観光ルートの美化作業を実施し、目標を達成した。 ・観光ルートのハブ等駆除対策、不法投棄パトロール及び投棄物回収・処理等を実施した。 ・今帰仁城跡を中心とした観光地及び村内文化財の危険木の伐採を実施し、台風前に撤去することで台風被害を少なくすることができた。 ・花の植え付けを実施した。									
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)				
	[R1成果目標] 今帰仁城跡及び観光地等の美化を行い、観光地として魅力的な景観が確保されているか(80%以上)を含め、観光客等に対するアンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標	( )	( )	( 80% )	( 80% )	( )			
			実績			84%	81%				
	[参考指標]		目標	( )	( )	( )	( )	( )			
			実績								
進捗状況説明		観光客等に対するアンケート調査の結果、「観光地として見欲的な景観が確保されている」との回答が81%となり、目標を達成した。									

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期は草木の成長速度が速いため、美化作業箇所が他の時期に比べて増加する。</li> <li>・悪天候が続くと美化作業が遅れ、当初計画していた日程等にズレが生じる。</li> <li>・観光客の増加、また訪れる場所の増加によって、ごみのポイ捨ての量や場所も増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古宇利島周辺に関しては、早期から美化作業を実施し、観光客が多く訪れる夏に向け魅力ある景観を確保する。</li> <li>・夏期は作業箇所が多いため観光地、観光ルートによっては、除草剤の使用も検討しながら美化作業を行うことで業務効率を上げ観光客の受入整備を行う。</li> <li>・観光ルートを正確に把握し、不法投棄パトロールや、投棄物回収・処理をより強化していく。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・美化作業箇所の増加に対応し、観光地として魅力的な景観を保つため、必要となる作業員数を確保、効率的な作業の構築、計画的な実施を図る。  
 ・地域住民や、区長等からの情報収集によって、正確な観光ルートの美化作業を継続的に実施する。  
 ・プランターの設置に伴い、計画的に花の植え付けや管理を行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
26,580	26,580	21,264	5,316	0



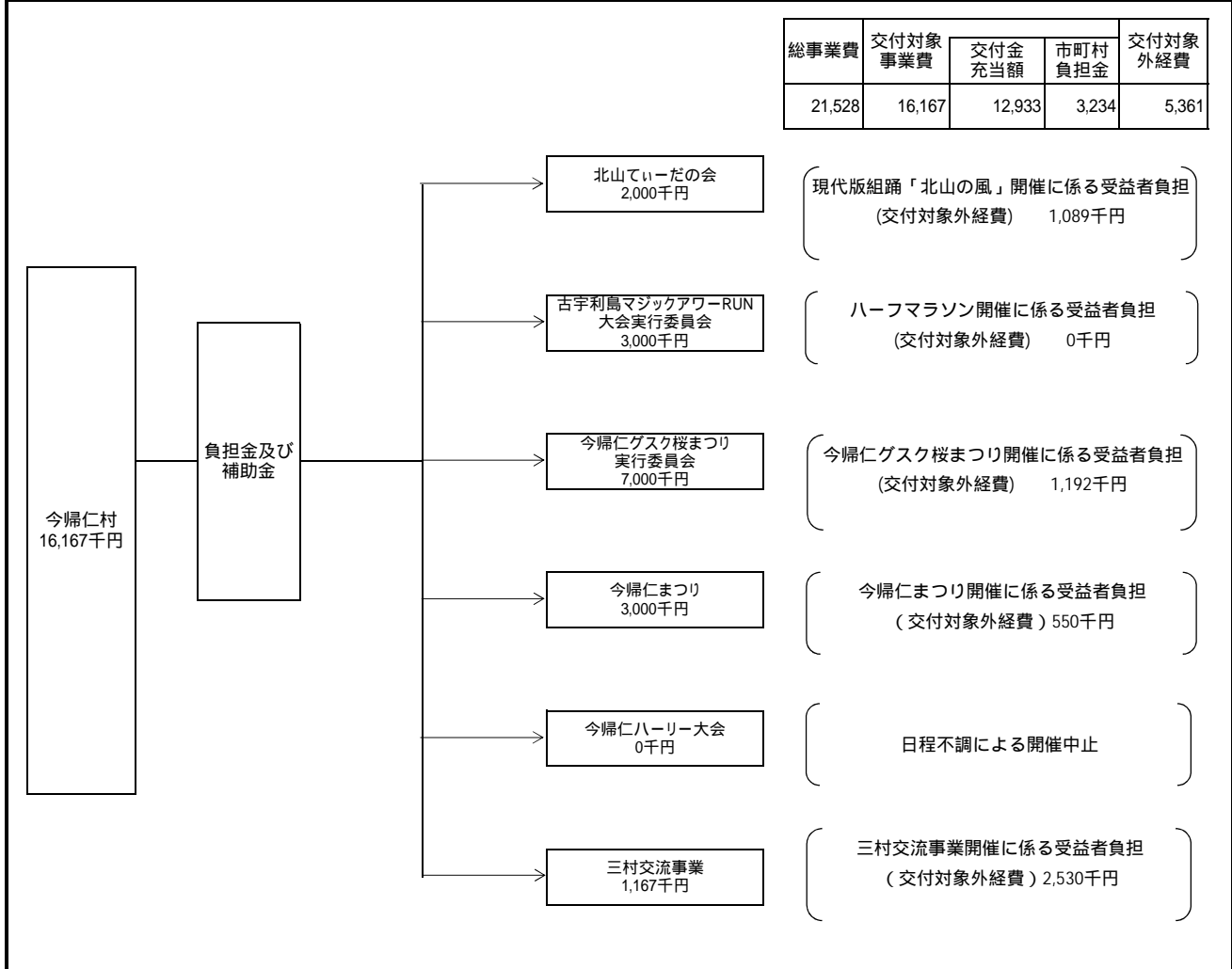
資金の 用途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	見積価格などを踏まえ支出先を選定しているため妥当である。予算規模は、事業に必要なものに限定しているため適正な規模である。 費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	観光力基盤強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
	担当部課名	総務課、経済課、建設課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄ブランドの確立	
事業内容	今帰仁村の観光地としての知名度アップを図るため、「現代版組踊 北山の風」、今帰仁まつり、ハーリー、桜まつり、いいなまつり等の実施に 対して補助する。 また、今帰仁村総合運動公園を高校駅伝やハーフマラソンの拠点とすることで、民泊事業の導入拡大を図り、村観光協会と連携し、観光関連産 業の活性化につなげる。						
効果発現年度	当年度	後年度( )年度					
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他( )		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算 の 状 況		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		(a)当初予算額	20,530	18,000	13,705	17,800	17,800
	(b)予算現額	21,929	22,053	13,705	17,788	16,223	
	(c)増減額(b-a)	1,399	4,053	0	12	1,577	
	(d)繰越額	0	0	0	0	0	
	A.計(b+d)	21,929	22,053	13,705	17,788	16,223	
	B.執行済額	21,929	22,053	13,705	17,788	16,167	
	うち交付金充当額	17,543	17,641	10,964	14,230	12,933	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.7%	
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「現代版組踊 北山の風」と今帰仁まつり、今帰仁グスク桜まつりは予定通り執行できた。</li> <li>・台風や他イベント等との兼ね合いからハーリー大会を実施できずに減額した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、古宇利ハーフマラソンは中止となったが、準備や広報に要した費用にて予算執行した。</li> </ul>					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	現代版組踊「北山の風」(11月・2月)		目標 ( 8月・10月・2月 )	( 10月(2回)・3月(2回) )	( 8月・11月・2月 )	( 11月・2月 )	
			実績 7月(2回)・10月(2回)・11月(1回)	6月・7月・10月(2回)・3月(2回)	10月(2回)・2月(2回)	10月・2月	
	古宇利島ハーフマラソン(4月)		目標 ( 4月 )	( 4月 )	( 4月 )	( 4月 )	
			実績 4月	4月	4月	開催中止	
	今帰仁城跡ライトアップ・桜まつり開催(1月)		目標 ( 1月 )	( 1月~2月 )	( 1月 )	( 1月 )	
			実績 1月~2月	1月~2月	1月~2月	2月	
	今帰仁まつり(10月)		目標 ( 10月 )	( 10月 )	( 10月 )	( 10月 )	
			実績 10月	台風中止	10月	8月	
今帰仁ハーリー(中止)		目標 ( 8月 )	( 9月 )	( 8月 )	( 8月 )		
		実績 10月	10月	台風中止	日程調整不備中止		
三村交流事業(11月)		目標 ( 11月 )	( 11月 )	( 11月 )	( 11月 )		
		実績 11月	11月	11月	11月		
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「現代版組踊「北山の風」」10月・2月に定期公演を開催した。</li> <li>・「古宇利ハーフマラソン」今回は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止としたため、活動目標を達成できなかった。</li> <li>・「今帰仁グスク桜まつり」例年の開花状況等を鑑みて2月1日からの開催とした。</li> <li>・「今帰仁まつり」計画通り実施できた。例年10月と夜間は寒い時期だったため、今回は真夏に実施して検証した。</li> <li>・「今帰仁ハーリー」今年度は役員等を含め日程の調整不備により大会開催を見送った。</li> <li>・「三村交流事業」当初計画通り実施できた。</li> </ul>					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (年度)
	現代版組踊「北山の風」 来場者数:1,300人		目標 ( )	( 1,330人 )	( 1,400人 )	( 1,300人 )	( )
			実績	1,032人	1,145人	1,076人	
	古宇利島ハーフマラソン 村外からのエントリー者数:3,500人		目標 ( )	( 3,700人 )	( 3,440人 )	( 3,600人 )	( )
			実績	3,753人	3,470人	3,651人	
	今帰仁城跡ライトアップ・桜まつり 来場者数:48,500人		目標 ( )	( 43,000人 )	( 45,000人 )	( 48,500人 )	( )
			実績	50,651人	52,059人	33,888人	
	今帰仁まつり 来場者数:10,400人		目標 ( )	( 11,200人 )	( 10,300人 )	( 10,200人 )	( )
			実績	台風中止	10,300人	10,400人	
	今帰仁ハーリー大会(中止)		目標 ( )	( 730人 )	( 780人 )	( 780人 )	( )
		実績	760人	台風中止	日程不調中止		
三村交流事業 来場者数:1,200人		目標 ( )	( 1,200人 )	( 1,100人 )	( 1,400人 )	( )	
		実績	1,300人	1,100人	1,200人		
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「現代版組踊「北山の風」」県内外にPRを行ってきたが目標人数に達しなかった。</li> <li>・「古宇利島ハーフマラソン」開催は中止になったが、第10回記念大会という事もあり、目標数に達した。</li> <li>・「桜まつり」まつり開催期間を前回の17日間から9日間へ短縮したため、目標数に達しなかった。</li> <li>・「今帰仁まつり」計画通りに実施でき、目標値も達成できた。</li> <li>・「今帰仁ハーリー大会」日程調整の不備により開催を見送った。</li> <li>・「三村交流事業」伊是名村、伊平屋村所有フェリーによる羽田内海遊覧の乗船客数が合計609名と</li> </ul>					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[現代版組踊「北山の風」]今年度は県内各種イベントへの出演、テレビ出演などを行いPRしてきたが目標人数に達しなかった。県外でのPRとして神戸での出演を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。</li> <li>・[古宇利島ハーフマラソン]今大会は記念大会という事とネットを用いたPR活動を増やした事で、参加申込者の伸びが良く、新型コロナウイルス感染症の影響が無ければ過去大会の参加者数記録を更新していた可能性が大きかった。</li> <li>・[桜まつり]イベント内容の充実やまつりを継続するための検証も踏まえ、開催期間を短縮した。まつり開催期間(2/1~2/9)の来場者数は33,888人だったが、1日平均来場者数は3,765人で、前回の平均3,062人を大きく上回った。</li> <li>・[今帰仁まつり]昨年度実施の10月から8月へ開催時期を変更、夏休み期間中の開催となり、昨年度に比べて来場者が増えたが暑さ対策が必要となる。</li> <li>・[今帰仁ハーリー大会]今回は準備の時期や総会の開催時期が遅く、他イベントとの日程が重なる関係で実施できなかった。</li> <li>・[三村交流事業]催しを10:40~20:00の期間行ったので、時間帯に関わらず楽しんでいただく事が出来たが、総会の実施が遅く十分なPRができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[現代版組踊「北山の風」]今回は実施出来なかったが県外での出演もPRになるので積極的に行っていきたい。</li> <li>・[古宇利島ハーフマラソン]更に参加者の増加を図るため、他のマラソン大会に参加している方を対象としたPRを行う。</li> <li>・[桜まつり]来場時間帯の分散化が課題となる。夜桜と城壁のライトアップがメインイベントとなっており、ライトアップが点灯する18時~21時の時間帯に来場者が殺到する。そのため、まつり会場は混雑し、場内に長蛇の列が出来ている。安全面や満足度向上のためにも、来場時間帯の分散化を図っていきたい。</li> <li>・[今帰仁まつり]8月の開催に伴い、暑さ対策が必要となった。大型テント等を設置して対策を行ったが、次回の検討課題として取り組みたい。</li> <li>・[今帰仁ハーリー大会]今回は早めに総会の実施等準備を行い、余裕を持った経営を行えるようにしたい。</li> <li>・[三村交流事業]来場する人のニーズに合った催しや時間帯の検討を行い、更なる満足度向上を図る。また、事前準備を早めに行いPR活動も充実させる。</li> </ul>

今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・[現代版組踊「北山の風」]関係各団体等と連携し、各種イベントへの出演を行う。又、村内での公演も引き続き行い組織の維持強化に努める。</li> <li>・[古宇利島ハーフマラソン]引き続きインターネットを用いて不特定多数にPRを行っていく。又、可能ならば県内マラソン大会の会場内にて、本大会募集パンフレットの設置・配布を行う。県外においてもスポーツ店などに設置依頼を行い、参加者の増加を図る。</li> <li>・[桜まつり]前回までは、夜にアーティストのライブやラジオの公開生放送を行ってきた。今回は昼間に子供連れ層をターゲットに「アンパンマンショー」を行った結果、夜間の混雑の緩和及び期間中の1日最高来場者数を記録した。比較的に来場者の少ない昼間の時間帯にイベントを行うことで、来場時間帯の分散化を図っていきたい。</li> <li>・[今帰仁まつり]開催時期にあったイベントを企画することによって、イベントの充実を図り、集客数をふやしていきたい。</li> <li>・[今帰仁ハーリー大会]早めの準備と運営にかかわる者の意思確認等を行い、充実したイベント開催を行いたい。</li> <li>・[三村交流事業]フェリーに乗船して羽地内海遊覧は、希少性が高いと考える。フェリー遊覧を中心に他イベントの充実を図ってPRしていく。</li> </ul>	

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流	評価	点検項目	評価に関する説明
用途の流 れ 点 検 評 価 目		支出先の選定方法は妥当か。	イベントを開催する実行委員会に限定し、選定を行っており妥当な選定だと考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模については、各実行委員会でのイベントに見合った適正な規模であった。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	補助金については、各実行委員会において、事業費の一部を負担しており適正であった。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	各イベントの事業目的達成の観点から、費用額及び使途については必要なものであり、支出は適正であった。

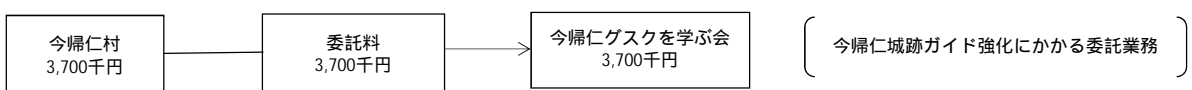
市町村名	今帰仁村						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	観光地安全強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	社会教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全確保を図るため、繁忙期及びイベント時の車両誘導及び駐車場、横断歩道等に交通整理員を配置する。						
効果発現年度	当年度	後年度(年度)					
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他( )		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,933	5,276	5,742	5,665	4,189
		(b)予算現額	4,698	5,130	5,742	6,612	3,489
		(c)増減額(b-a)	235	146	0	947	700
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	4,698	5,130	5,742	6,612	3,489
		B.執行済額	4,698	5,130	1,383	6,612	3,489
		うち交付金充当額	3,758	4,104	1,106	5,290	2,791
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	24.1%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	前年までの日別来場者数を考慮し、交通整理日数を前年度より減らし予算を減額。予算内での適正な執行が行えた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	繁忙期である12月～3月に今帰仁城跡の駐車場及び横断歩道に交通整理員を配置する。	目標 (交通整理の配置4人 城跡来訪者の安全対策)	(交通整理の配置4人 城跡来訪者の安全対策)	(交通整理員の配置 (12月～3月))	(交通整理員の配置 (12月～2月))		
		実績 (交通整理の配置4人 城跡来訪者の安全対策の実施)	(交通整理の配置3人 城跡来訪者の安全対策の実施)	(交通整理員の配置 (12月～2月))	(交通整理員の配置 (12月～2月))		
		目標 ( )	( )	( )	( )		
達成状況説明	今帰仁城跡に入場するためには券売所から村道を渡らないと入場できず、繁忙期にはレンタカーが増加し危険な状況であるため、今帰仁城跡の駐車場及び横断歩道に交通整理員を配置する。 ・期間:12月～2月 ・配置:横断歩道1名・第1駐車場1名・第2駐車場1名(桜まつり期間の土日は2名)・大型バス駐車場1名(桜まつり期間の土日は3名) ・桜まつり期間の土日のみ第3駐車場2名、第4駐車場3名、臨時駐車場2ヶ所各2名 桜まつり2月1日(土)～2月9日(日)						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	交通整理員が配置された箇所における事故件数0件	目標 ( )	(0件)	(0件)	( )	( )	
		実績	0件	0件			
		目標 ( )	( )	( )	( )	( )	
進捗状況説明	世界遺産である今帰仁城跡を訪れる観光客の安全確保を図るため、交通整理員を配置することにより、配置箇所における事故件数は0件となり、目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年通り交通整理員の人員確保が課題。</li> <li>・外国人観光客増加に伴い、外国人が運転するレンタカーも増えている。今後も安全対策とスムーズな誘導が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に引き続き交通整理員の確保に向けて、効率的な配置箇所及び配置人数を精査・検証する必要がある。</li> <li>・安全かつスムーズな誘導の実施を目指し、交通整理員のスキルを向上させる取り組みを検討する必要がある。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通整理員の効率的な配置場所及び配置人数を精査・検証し、必要な交通整理員数を確保する。</li> <li>・高いスキルを持った交通整理員を確保するため、本業務に従事する交通整理員は、警備業法に定められた研修を受けた者とする旨を仕様書に記載するとともに、委託業者で実施する研修時間(30時間)を考慮して、早期に委託契約を締結する。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,489</td> <td>3,489</td> <td>2,791</td> <td>698</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,489	3,489	2,791	698	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,489	3,489	2,791	698	0										
<pre> graph LR     A[今帰仁村 3,489千円] --&gt; B[委託料 3,489千円]     B --&gt; C[北部警備保障(株) 2,354千円]     B --&gt; D[東洋ワーク セキュリティ沖縄 株式会社 1,135千円]     C --- E[今帰仁城跡来訪者安全対策にか かる委託業務]     D --- F[今帰仁城跡来訪者安全対策にか かる委託業務]   </pre>														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者の選定にあたり入札指名業者1社に見積依頼したところ、予算額を超えたため、複数の類似事業者に分けて見積依頼をしたところ安価になったため、複数業者との随意契約にて遂行した。											
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模については、他イベントの事例と比較しており、事業内容に見合った適正規模であると判断した。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	費目・使途については、精算段階で完了検査を実施しており、目的に即し必要なものに限定されていると判断した。											
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		今帰仁村										
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	2-		今帰仁城跡ガイド強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-工						
	担当部課名	社会教育課		事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界に通用する観光人材の育成					
事業内容		<p>・今帰仁村には世界遺産である今帰仁城跡が所在し、「今帰仁グスクを学ぶ会」によって来場者に無料ガイドが行われている。今帰仁城跡の魅力を更に観光客へアピールしていくため、「学ぶ会」の資質向上を図り強化を行う。</p>					- 1 - (1)					
	効果発現年度	当年度		後年度( 年度)								
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		
		(a) 当初予算額	3,690		3,660		3,077		3,700		3,700	
	(b) 予算現額	3,690		3,660		3,077		3,700		3,700		
	(c) 増減額(b-a)	0		0		0		0		0		
	(d) 繰越額											
	A. 計(b+d)	3,690		3,660		3,077		3,700		3,700		
	B. 執行済額	3,690		3,660		3,077		3,700		3,700		
	うち交付金充当額	2,952		2,928		2,461		2,960		2,960		
	次年度繰越額	0		0		0		0		0		
	執行率(%) (B/A)	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		
予算の状況の説明		・予算内での適正な執行が行えた。										
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況									
			H28年度		H29年度		H30年度		R1年度			
	世界遺産・国指定史跡今帰仁城跡の無料案内ガイドの実施、及びガイドの資質向上を図るための講演会・研修会を実施		目標	( 講演会1回 研修会2回 )		( 講演会1回 研修会2回 )		ガイドの実施、 講演会・研修会 の実施		( 無料案内ガイドの 実施、ガイドの質 向上を図るための 講演会・研修会 の実施 )		
			実績	講演会1回 研修会2回		講演会1回 研修会2回		ガイドの実施、講演会・ 研修会の実施		無料案内ガイドの 実施、ガイドの質向 上を図るための講 演会・研修会の実 施		
			目標	( )		( )		( )		( )		
			実績									
達成状況説明		<p>・ガイド実施は新型コロナウイルスによる来場者減少の影響があり、目標に1,038名届かず11,362名であった。          ・講演会(5/11開催36名参加)、「ガイド養成研修会」(6/30～7/24で6回開催延べ89名参加)「史跡見学会奄美大島研修」(1/24-26開催19名参加)の開催、他団体主催の研修会への参加、城跡等文化財散策ツアーの実施を通して、ガイドの資質向上が図られている。なお、ガイド登録人数は37名である。</p>										
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)					
	ガイドによる案内者数 12,400名		目標	( )	( 11,900名 )	( 12,200名 )	( 12,400名 )	( )				
			実績		12,040名	13,614名	11,362名					
	[参考指標]		目標	( )	( )	( )	( )	( )				
			実績									
進捗状況説明		<p>・講演会、研修会等開催によりガイドの資質向上を図り、今帰仁グスク桜祭り時に実施した文化財散策ツアー等により、ガイド経験を重ねている。来訪者に分かりやすく今帰仁城跡を案内することで、今帰仁城跡のPRにつながっている。令和元年度の今帰仁城跡入場者数は239,250人であり、新型コロナウイルスが影響しH30年度実績252,155人と比べ約1万2千人の減。R1年度ガイド目標数値(12,400名)を1,038名欠いて、実績値は11,362名であった。</p>										

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症が起こった際の対応が課題。今回は新型コロナウイルス感染症の影響で城跡への入場者数が減少したため、春休み期間中の活動を自粛しないといけなかった。</li> <li>・ガイド養成講座の実施等により新人ガイドは増えているが、ガイド高齢化の問題は続いており、今後も人材発掘を推進していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今帰仁城跡の入場者数は前年度比で約1万2千人減少した。令和2年度も新型コロナウイルスの影響による入場者数の減が見込まれるが、観光担当部局と連携し、観光客誘致活動を進めていく。また、来場者が見込めない場合の活動についても今後の課題としたい。</li> <li>・文化財部局と連携し、ガイド養成講座を継続実施し、ガイドメンバーの増員を図る。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、講演会・研修会・見学会等を実施することで、ガイド個々の案内に関する知識や経験を増やし質の向上を図る。また、ガイド養成講座を実施することで、メンバーの増員、案内実績の増を図る。</li> <li>・感染症が起こった際の活動として、Webを活用した勉強会やガイド間における情報交換、共有を図れる方法を構築していく。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,700	3,700	2,960	740	0
 <pre> graph LR     A[今帰仁村 3,700千円] --&gt; B[委託料 3,700千円]     B --&gt; C[今帰仁グスクを学ぶ会 3,700千円]     subgraph Note     D[今帰仁城跡ガイド強化にかかる委託業務]     end     </pre>				

資金の流点、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者である「今帰仁村グスクを学ぶ会」は、ガイド業務について約10年以上の実績があり、業務の計画や現場の現状に詳しく、この種の業務に精通した人員を擁しており、妥当な委託先である。 予算規模については、適正規模である。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		



市町村名		今帰仁村										
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	2-	今帰仁城跡等情報発信強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ							
担当部課名	教育委員会		事業実施(予定)年度	令和元年度	観光客の受入体制の整備							
事業内容	今帰仁村グスク交流センターにデジタルサイネージ(電子看板)を設置する。今帰仁城跡の歴史を学ぶコンテンツを掲載し、来場者の利用を促進する。また、今帰仁村内の観光地や飲食店情報等を掲載し、今帰仁城跡から村内各地への周遊につなげる。											
効果発現年度	当年度		後年度( 年度)									
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		
		(a)当初予算額										15,000
		(b)予算現額										14,850
		(c)増減額(b-a)		0	0	0	0	0	0	0	0	150
		(d)繰越額		-	-	-	-	-	-	-	-	-
	A.計(b+d)			0	0	0	0	0	0	0	0	14,850
	B.執行済額											14,850
	うち交付金充当額											11,880
	次年度繰越額											0
	執行率(%) (B/A)											100.0%
予算の状況の説明		プロポーザル審査により委託事業者を選定し、予算内で執行できた。										
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況									
			H28年度		H29年度		H30年度		R1年度			
	今帰仁城跡等の情報コンテンツの掲載 デジタルサイネージの設置		目標	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	今帰仁城跡等の情報コンテンツの掲載 デジタルサイネージの設置
			実績									今帰仁城跡等の情報コンテンツの掲載 デジタルサイネージの制作・設置
			目標	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
			実績									
達成状況説明		今帰仁村グスク交流センターにデジタルサイネージを設置した。 設置したデジタルサイネージにて今帰仁城跡及び村内飲食店等の情報コンテンツを掲載した。										
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度		H30年度		R1年度		目標値(R2年度)		
	今帰仁城跡等の情報コンテンツの掲載完了 デジタルサイネージの設置完了		目標	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	今帰仁城跡等の情報コンテンツの掲載完了 デジタルサイネージの設置完了
			実績									今帰仁城跡等の情報コンテンツの掲載完了 デジタルサイネージの設置完了
	[R2成果目標] 今帰仁城跡公式HP(観光情報)アクセス数10万件		目標	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	今帰仁城跡公式HP(観光情報)アクセス数10万件
			実績									
	進捗状況説明		今帰仁城跡及び村内飲食店等の情報コンテンツの掲載を行った。 今帰仁村グスク交流センターにデジタルサイネージの設置を完了し、目標を達成した。									

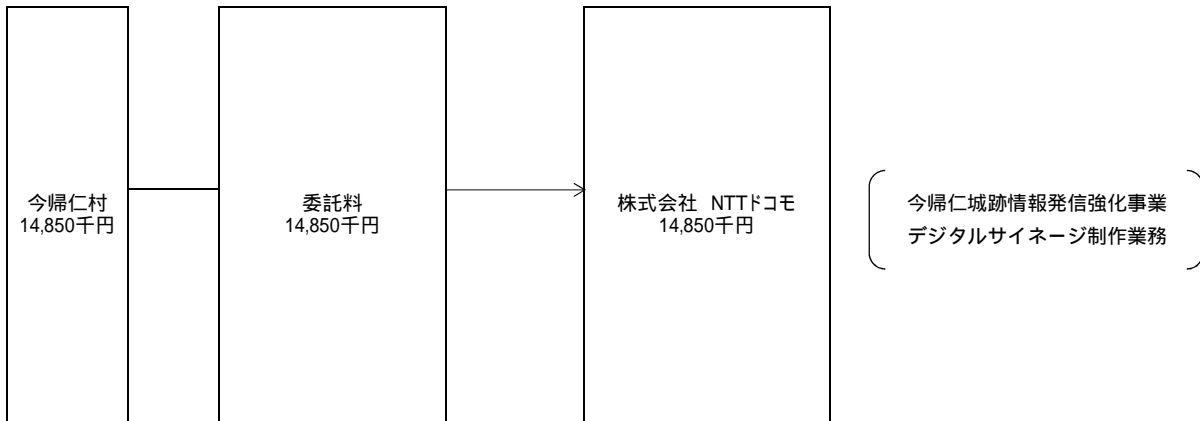
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今帰仁城跡及び今帰仁村の魅力を伝えることが可能となった。今後は発信した情報を活かし、観光客の村内周遊につなげていきたい。デジタルサイネージの利用状況や利用後の村内周遊状況をアンケートにより検証し、工夫・改善を行っていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度成果目標であるHPへのアクセス数を上げるため、デジタルサイネージ及びHP掲載内容の充実を図る。</li> <li>・効果的なアンケートを実施するため、アンケート方法(場所や内容)について検討する。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・令和元年度の事業実施、設置を行ったデジタルサイネージの活用推進のため、今帰仁城跡のHPと連動した活用を行う。具体的には、今帰仁城跡の施設情報以外にも村内観光情報等を更新、情報鮮度を上げ、内容の充実を行っていく。  
 ・効果的なアンケートを実施し、観光客へ今帰仁城跡及び村の魅力発信がされたかを検証し、必要に応じて工夫・改善を行っていく。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
14,850	14,850	11,880	2,970	



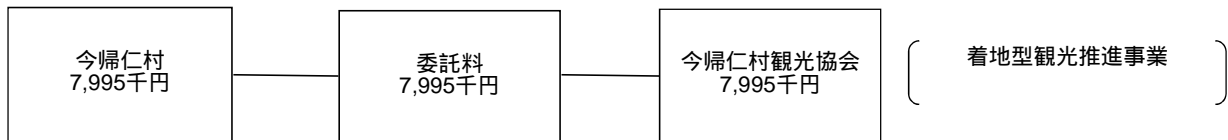
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザル審査を実施し選定しており、妥当であったと考えている。 ○企画提案時、契約時に見積を徴しており、予算規模は適正であった。 ○費目・用途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村										
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	2 -	今帰仁村着地型観光推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-工						
担当部課名	経済課	事業実施(予定)年度	令和元年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備						
事業内容	本村の着地型観光を促進するため、民泊事業者等の受け入れ体制強化及び誘致活動を行い、新規教育民泊客の増加及びリピート校の確保を図る。											
効果発現年度	当年度		後年度(令和 年度)									
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		
		(a)当初予算額										0
		(b)予算現額										7,995
		(c)増減額(b-a)		0	0	0	0	0	0	0	0	7,995
		(d)繰越額		-								0
	A.計(b+d)			0	0	0	0	0	0	0	0	7,995
	B.執行済額											7,995
	うち交付金充当額											6,396
	次年度繰越額											0
	執行率(%) (B/A)											100.0%
予算の状況の説明		計画に沿って事業を実施できたので適正であった。										
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況									
			H28年度		H29年度		H30年度		R1年度			
	受入民家を対象とした講習会(沖縄料理・世界遺産ガイド等講習会)		目標	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	実施	
			実績								実施	
	専属職員の配置		目標	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	3名	
			実績								3名	
	県外での誘致活動		目標	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	実施	
			実績								実施	
	達成状況説明		・観光ガイド育成のための各種講座は 料理教室 世界遺産等ガイド講習③アレルギー対応講習等を計画し開催できた。 ・専属職員を計画通り配置することができた。 ・県外での誘致活動は、関東・信越・東海・近畿・中国・四国地方で誘致活動を行った。									
	成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)		H29年度		H30年度		R1年度		目標値(R 年度)
民泊次年度予約数		目標	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( 12,000 )	( )	
		実績								15,555		
		目標	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
		実績										
進捗状況説明		教育民泊客(学校)は、予約を1年前に確定するため、令和元年度予約される令和2年度の民泊客の人数を成果目標としている。令和2年度の予約延べ人数実績は15,555人と129.6%の達成率となっている。内訳としては、新規44校、リピート校25校、計69校である。										

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	受入民家からの要望である「受入人数の増」へ向けて、誘致活動や受入体制の強化、受入民家のスキルアップを図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受入体制の強化、受入民家のスキルアップのための勉強会や講習会を定期的に開催、各民家の意識向上を図る必要がある。</li> <li>・民泊受入誘致活動で、本村の民泊を紹介するツールとしてパンフレットや手引き・動画等を作成し、県外へもPRを行う。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
民泊受入家庭増加への取り組み及び、受入スキルの向上へ向けた各種講習会の開催を行う。また、本村の民泊を紹介するパンフレットや学校・旅行社向けの手引きの作成、また本村の魅力伝える村内風景や民泊受入時の動画を作成し積極的に民泊誘致活動を行い、受け入れ数を増やしていく。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,995	7,995	6,396	1,599	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、本村の教育民泊を担っている事業所となっており、その目的・成果達成に向けて委託先の選定は妥当であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・事業額について、当初の目的に沿って遂行したため、適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・使途について、事業目的達成の観点から内容を確認し、適切であった。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-	今帰仁村優良繁殖雌牛導入支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部課名	経済課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 - 1 - (6)	
事業内容	安定した素牛生産地の確立に向け、素牛のブランド化を推進するため、今帰仁村和牛改良組合による沖縄県農業協同組合からの優良繁殖雌牛(貸付牛)の導入に対して支援する。						
効果発現年度	当年度	後年度( 年度)					
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ( )		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a)当初予算額	10,500	10,500	7,500	10,500	10,500
		(b)予算現額	10,139	10,199	7,500	9,989	10,073
		(c)増減額(b-a)	361	301	0	511	427
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A.計(b+d)		10,139	10,199	7,500	9,989	10,073
	B.執行済額		10,139	10,199	7,500	9,989	10,073
	うち交付金充当額		8,111	8,159	6,000	7,991	8,058
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初計画どおり21頭の優良繁殖雌牛を導入し、執行残(427千円)は他事業へ流用した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	今帰仁村和牛改良組合員が沖縄県農業協同組合の貸付牛等の繁殖牛を導入する際に1頭あたり50万円を上限に支援を行う		目標 (1頭あたり50万円を上限に支援)	1頭あたり50万円を上限に支援	1頭あたり50万円を上限に支援	1頭あたり50万円を上限に支援	
			実績 1頭あたり50万円を上限に支援の実施(平均1頭48万円)	1頭あたり50万円を上限に支援の実施(平均1頭50万円)	1頭あたり50万円を上限に支援の実施(平均1頭47万円)	1頭あたり50万円を上限に支援の実施(平均1頭48万円)	
			目標 ( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明		令和元年度は21頭導入し、一頭あたり50万円を上限(平均48万円/頭)に支援を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合113%以上		目標 ( )	( )	(109%)	(113%)	( )
			実績		111%	104%	
			目標 ( )	( )	( )	( )	( )
			実績				
進捗状況説明		成果目標達成とはならなかったが、導入牛からの子牛と導入牛以外の子牛との価格差は104%となり、村内の子牛の質が向上したと考えられる。 [R1年度セリ結果(H31.4月～R2.3月)] ・導入牛以外の子牛 平均 697,125円 ・導入牛(H26～H30)の子牛 平均 724,636円					

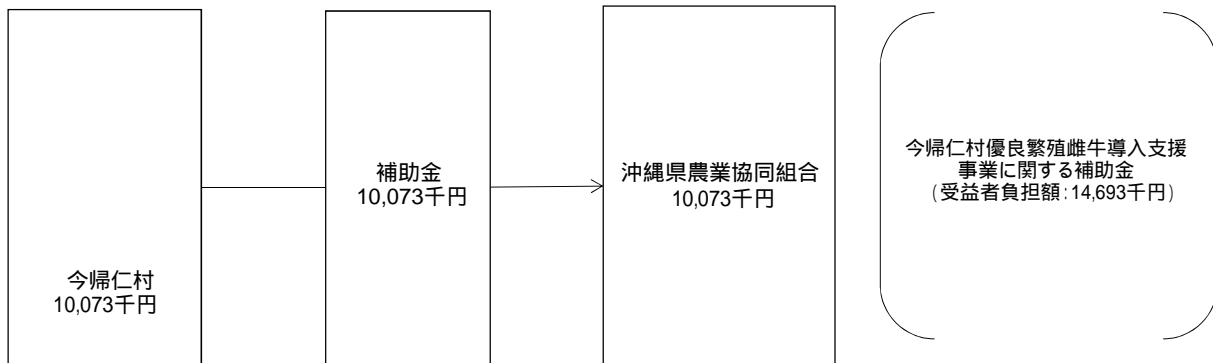
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規導入農家が4件あり、今後も導入頭数が少ない方を優先し、村内農家に対し平等に導入支援が出来るように事業を行う必要がある。</li> <li>事業実施については、4月セリから導入を開始し余裕を持って事業実施することが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業導入農家選定については、引き続き新規導入農家やこれまでに導入頭数が少ない農家を優先に実施する。</li> <li>今後についても事業の要望調査を早期に行い導入の遅滞がないよう、事業期間内での円滑な実施を行う。</li> <li>新型コロナウイルスの影響によりセリ価格が下落していることから、今後、価格が現状のまま推移すると予算残が見込まれるため全体計画を見直し導入頭数を増やすなどの検討が必要。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・本事業導入農家を選定する場合は、全体の老廃牛更新を促すためにも未導入農家や導入頭数の少ない農家から優先的に行う。  
 ・村和牛改良組合員の所有する老廃牛の更新、母牛得点の向上を図りつつ、全体計画の変更を検討しつつ事業実施に向け取り組んでいく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
24,766	10,073	8,058	2,015	14,693



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	沖縄県農業協同組合は実績もあり村和牛改良組合とも連携を図れることから妥当であったと考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模については、計画頭数を導入することが出来たため適正規模であった。 受益者負担は、14,693千円となっており負担関係は妥当だと考えている。
		費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費用・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認しており、適正であった。

市町村名		今帰仁村					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4 -	幼保連携一体化施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章 - 2 - (2) - イ	
担当部課名	幼保連携推進室	事業実施 (予定)年度	平成27～令和元年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	地域における子育て支援の 充実  - 4	
事業内容	本村独自の地域一貫型教育システム「北山学園プロジェクト」を創設し、就学前子どもを持つ家庭の育児支援や連続性のある幼児教育、保育環境を創出し、保育サービスの拡充と地域の子育てニーズや新制度に対応したバランスのとれた総合的な子育て支援を行うため、就学前の幼児教育・保育を一体的に担う「幼保連携一体化施設」の整備を行う。						
効果発現年度	当年度		後年度(令和2年度)				
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他 ( )	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算 の 状 況		H28年度	H29年度	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度
		(a)当初予算額	110,934	68,832	886,674	-	14,500
		(b)予算現額	83,453	68,832	854,731	-	22,947
		(c)増減額(b-a)	27,481	0	31,943	-	8,447
		(d)繰越額	0	0	0	300,163	0
		A.計(b+d)	83,453	68,832	854,731	300,163	22,947
		B.執行済額	83,453	67,225	554,568	297,949	22,737
		うち交付金充当額	66,762	53,780	443,654	238,359	18,189
		次年度繰越額	0	0	300,163	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	97.7%	64.9%	99.3%	99.1%
予算の状況の説明	工事請負費について、年度内で支払いを終え予算範囲内で適正に執行できた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
	幼保連携一体化施設の整備	目標	・実施設計、用地測量及び地質・磁気探査、造成設計の業務委託	・造成施工監理、解体施工監理の業務委託 ・造成工事、浄化槽設置・撤去工事、解体工事の工事発注	・建築工事の発注 ・外構工事発注。	・外構工事(駐車場の発注) ・安全対策工事の発注。	
		実績	・実施設計、用地測量及び地質・磁気探査、造成設計の業務委託の完了	・造成施工監理の業務委託の完了 ・造成工事、浄化槽設置・撤去工事、解体工事の工事発注の完了	・建築工事の完了 ・外構工事の完了	・外構工事(駐車場の完了) ・安全対策工事の完了	
	目標	( )	( )	( )	( )		
	実績						
	達成状況説明	・外構工事(駐車場)は令和元年12月2日に完了。 ・安全対策工事は令和2年2月28日に完了。 ・「幼保連携一体化施設」とは、保育所と幼稚園の機能を合わせもつ幼児教育・保育施設(幼保連携型認定こども園)である。本村では保・幼・小・中・高の一貫教育「北山学園プロジェクト」を進めており、同施設は保・幼・小の校種間連携の中心施設として位置づけている。					

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (R2年度)
	・外構工事(駐車場)の完了 ・安全対策工事の完了	目標	( )	・造成工事及び、施工監理の完了	・建築及び外構工事の完了	・外構工事(駐車場)の完了	( )
		実績		・造成工事及び、施工監理の完了	・建築及び外構工事の完了	・外構工事(駐車場)の完了	
		目標		・既存建物の解体工事及び、施工監理の完了		・安全対策工事の完了	
		実績		・既存建物の解体工事の完了		・安全対策工事の完了	
	・供用開始	目標	( )	・浄化槽撤去工事及び、新設工事の完了	( )	( )	待機児童数0名
		実績		・浄化槽撤去工事及び、新設工事の完了			
	進捗状況説明	・幼保連携一体化施設の外構工事(駐車場)を完了した。 ・幼保連携一体化施設の安全対策工事を完了した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	工期も十分に確保されたことから、計画通り実施できた。	・計画どおり進み、令和2年4月1日開園し供用を開始した。
今後の取り組み方針		
・最終工事の外構工事(駐車場)及び安全対策工事を年度内では完了したため、令和2年4月1日開園、供用開始した。今後、園児を入れて運用していくにあたり、安全性の再確認等を行いつつ、広く村民に慕われる「こども園」となるようにしていきたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)							
			総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
			22,737	22,737	18,189	4,548	0
今帰仁村 22,737千円	工事請負費 22,737千円	→	喜屋武建設 13,134千円	〔 外構工事(駐車場) 〕			
		→	(株)SIN企画 9,603千円	〔 安全対策工事 〕			
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目		評価に関する説明			
		支出先の選定方法は妥当か。		工事請負業者は、村の契約規則に基づき、指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。			
	-	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		予算規模については、入札残及び精算による減額であり適正な規模であったと考えている。			
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		費目・使途については、工事完了検査を実施しており、目的に即し必要なものであると判断した。			